

旬人



まつひさ 松久 恭治さん

昭和63年5月から芽室町商工会長、平成12年5月からは、北海道商工会連合会副会長など、多くの要職に就かれ、商工業の振興に尽力。この度、長年の功績が称えられ「旭日双光章」を受章。松久園経営。芽室町出身。72歳。

皆さんの支えのおかげでいただいた勲章

私自身が、何か特別な実績を残したわけではなく、皆さんに支えていただき、長年の間、要職に就かせていただいた結果の勲章であります。同志や関係団体の皆さんと家族、さらにご指導くださった諸先輩の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

平成10年にオープンした、めおろーどの建設など駅前再開発事業は、多くの困難を乗り越えて辿り着いた道なので、強く印象に残っています。

現在は、地域や業種・業態により格差が生じる時代となり、常に国や道の動きも確認しながら経済活動を考えていかななくてはなりません。

芽室町では、農業者と商工業者の人間関係をさらに深め、その距離を縮め、経済循環や経済効果に結び付けていくことが重要だと考えています。



おお た 太田 賢さん

“みこしを担ぎたい”という純粋な思いから、地域の仲間たちと今春に上美生干支みこしを担ぐ会(8人)を立ち上げ、代表を務める。担ぎ手50人を含むスタッフ約70人が集まり、準備はラストスパート。上美生で農業を営む、27歳。

“みこしを担ぎたい”という純粋な思いを胸に

地域の仲間と飲んでいた席で、平成16年に幕を閉じた“裸みこし”を思い出し、純粋に「また、みこしを担ぎたい」というみんなの思いが始まりでした。

元旦午前0時、上美生神社で初詣を行い、神社から上美生農村環境改善センターまでの道のりを、オリジナルTシャツを着て、重さ約400キロのネズミ年みこしを担いで練り歩きます。中には、裸みこしスタイル(さらにしふんどし)で出たいという人もいます。私もその一人です(笑)。

このイベントがきっかけで地域の輪が広がってほしいと思いますし、準備を進める中で輪の広がりを少しずつですが実感しています。賛同してくれる人が一人現れるたびに喜びを感じる毎日です。

上美生の恒例行事へと成長させていきたいです。

アフタヌーン ティー

広報編集室から



▶気が付けば師走。1年は早いものだと毎年のように思いますし、何ということなく気ぜわしい日々を過ごしてしまいがちです。でも空気が乾燥するこの季節は、夜空が春や夏に比べてより美しい星々に彩られる時期でもあります。年末を控えて深夜までお仕事という方も、ふと見上げた夜空の光景に心癒されるひとときがあるかもしれませんね。

(H)

▶「師走」。個人的には好きな季節です。何かと忙しくバタバタしている時期ですが、年末年始に向けてイベントが多く、なぜかワクワクします。雪が舞う演出があれば、なあさらです。

1年生の息子も、この時期はワクワクしています。小学校1年目をしっかりと頑張ってきた彼のもとには、今年もサンタクロースは、忘れずにやってくるでしょう…。

(K)

▶今年も早いもので残り1か月を切り、何かと慌ただしくなってきました。クリスマスも近づくにつれて、イルミネーションを飾る家庭が、目立つようになりましました。我が家でも、小さいながら、窓に飾り付けをしています。寒い季節を向かえ、夜に鮮やかに輝くイルミネーションを見ていると、何か心と体が暖かくなるような気がしますね。

(N)

人の動き

人口 19,273人 (+27)
女性 10,047人 (+13)

世帯数 7,239戸 (+15)
男性 9,226人 (+14)

平成19年11月30日現在 / () 書きは前月比